

数々修習

vol.08

平成二十九年 夏

- ・住職からのご挨拶
- ・盂蘭盆会万燈供養について
- ・お盆に込められた意味とは
- ・奉納演奏・井原季子さんの紹介
- ・五月の大祭についての報告

数々修習とは？

道を求める事、つまり見道・求道を繰り返し繰り返し反復するという意味です。私住職もこのお便りと一緒に熟読していければと思っています。

お盆供養についての大切なお知らせ

ご先祖様への思いを大切にしつつ 新たな形での盂蘭盆会供養を行います



第二十世住職 藏本崇正

本

格的な夏が少し近づいてまいりました。夏、寺院では「お盆」の供養が執り行われます。

お盆の時期は、地域や家庭によって「七月盆」と「八月盆」に分かれています。これは、明治時代に旧暦から新暦に変わったためです。元々は旧暦七月十五日（旧暦八月の中旬以降）に行われていたお盆の供養。日付に合わせて七月に行うのが七月盆、時期に合わせて八月に行うのが八月盆とされています。ただ近年は、七月盆だった家庭も、お盆休みに合わせて八月に供養するケースが増えています。

当院でも、毎年七月十六日と八月十六日の二回、お盆の送り火法要を勤めてまいりました。が、八月盆の方が大多数となつてまいりました。例年七月盆は、ほんの数名がお参りされるまでになり、当院では数年前から、今後七月盆の法要をどうすべきか検討してまいりました。

そこで本年より七月の法要を、八月に厳修いたします。法要は、本蔵院ではなく当院が運営します。「公園墓地菩提樹苑」内の鐘楼堂広場にて執り行います。詳しくは、下記をご参照

ください。なお、八月十六日の送り火は同所に十九時より点灯いたします。ご自由にご参拝ください。この法要は、檀信徒様だけでなく、菩提樹苑の建立者の方々、沙羅の苑のペットちゃんや飼主様、ならびに昨年の震災で亡くなった方々など、当院に縁のある方、ない方すべての総供養法要として行うものです。これは仏教の「一切衆生（いっさいしゅじょう）」の考え方につながります。

檀信徒の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。なお、七月盆での柵（たきぎょう・ご自宅の仏壇での説経）をご希望の方は今までと変わらずご対応いたします。早めのご予約をお願いいたします。また、今回の「数々修習」では、お盆の意味などもまとめております。あらためてお盆について考えていただくきっかけになればと考えております。

平成二十九年七月
第二十世住職 藏本崇正 合掌

本蔵院からのお知らせ

内拝を行う5月の大祭 無事に執り行われました

お不動様のご縁日である28日に毎月行われる月例護摩祈願。願い事と名前を書いた「護摩木」を導師が祈念して焚き上げます。

5月祈願も無事執り行われました。5月は大祭にあたり、参拝者が自らの手で護摩木をお不動様の智火(ちか)に投じていただく「内拝」が行われました。日曜と重なり、多くの方においでいただき、ありがとうございました。

毎月28日13時から、本蔵院本堂で行っておりますので、機会を合わせてぜひご参加ください。次回内拝が出来るのは、9月28日(木)の秋の大祭となります。



前回の大祭の様子

秘伝のレシピ!? で大好評 本蔵院のまかないカレー

当院にある「暗黙のルール」のひとつ、「お不動様の法要前は坊守特製カレー」。28日の月例不動護摩祈願前の昼食はカレーと決まっています。いつから始まったのか、理由が何かは不明ですが、先代の頃からの不思議なしきたりです。スパイスを利かせた辛めのカレーは職員に大好評。宗良さんはいつも超大盛りいただきます！しっかり食べて、法要への気持ちを高めています。



皆でおいしくいただきます
宗良さんの大盛りカレー

「百螺祈願」が生んだ縁 加藤神社様と絆を深めました

昨年の百螺祈願によって、当院と強い絆で結ばれた熊本・加藤神社様。先日、当山職員全員を招待していただき「交流会」を開いていただきました。熊本城を独占しながらの食事は、最高のご褒美。あらためて熊本や熊本城の復興への気持ちを深めることができました。これからも湯田宮司をはじめとした神職の皆様と手を取り合い、神仏習合の世界を回復していきたいと考えています。



加藤神社の皆様と一緒に記念撮影

蒸し暑い夏を、元気に 乗り切ってまいりましょう

いよいよ夏本番！ 熊本の蒸し暑さを、元気に乗り切っていこうと考えています。皆様も体調にお気をつけてお過ごしください。「数々修習」では、内容のご感想やご要望などをお待ちしております。ぜひ下記までお知らせください。

発行元 本蔵院「数々修習」編集室
(担当/宮本ゆりこ)
〒860-0811 熊本市中央区本庄6-15-50
TEL 096-364-4848 / FAX 096-364-9570
info@honzouin.or.jp

今年から会場も内容も変わります

八月十二日に厳修いたします 盂蘭盆会万燈供養(うらぼんえまんとくよう)について

上

のご挨拶で述べました通り、お盆の供養について、内容と場所が大きく変わります。檀信徒の皆様だけではなく、どなたでもお越しいただける「供養」です。また、奉納演奏なども行う予定です。ですので周の方をお誘いのうえ、ご参拝ください。

菩提樹苑とは？

菩提樹苑は、当院が運営と管理を行う公園墓地。金峰山の中腹、熊本県立公園内に位置します。熊本市内を一望できる高台にあり、豊かな自然が特徴です。五万平方メートルの広大な敷地に約五千基余りの墓碑がゆつたりと並んでいます。管理と運営の優秀さから、「厚生大臣表彰」も受賞しております。



お燈明が整然と並ぶ様子



今春完成した鐘楼堂。熊本市内を見守ります

「お盆」に込められた意味とは？

何となく「先祖を供養する日」と捉えているお盆。込められた意味やお迎えする方法などについてご存知ですか？ 当院住職がお盆について解説します。

○ **そもそもお盆とは？**
ご先祖様たちが、極楽浄土からこの世に帰ってくる日です。改めてご先祖様を敬い、自分たちの今があることに感謝する大切な機会であると言えるでしょう。

○ **いつに行われるもの？**
お盆は、地域差のある行事はありません。初めの挨拶でご説明した通り、大きくは7月盆と8月盆に分かれています(沖縄では9月に行う場合もあります)。熊本でも地域(もしくは家庭)ごとに、7月盆・8月盆が分かれています。ただ、大切なのは時期ではなく、年に1度、ご先祖様を敬う機会を設けることだと思います。

○ **自宅ではどのようにご先祖をお迎えするとよい？**
ご先祖様をお迎えするために、ご家庭の仏壇もしくはお位牌の前にお灯明とお供え物である「精霊馬」を飾ります。精霊馬とは、きゅうりとナスに楊枝などを差し込んで作ったものです。この世に帰ってくる際はキュウリの「馬」で、出来るだけ早く来てもらい、あの世に戻られる際にはナスの「牛」でのんびりとお帰りにいただくようにという思いが込められています。

○ **お墓参りはどうする？**
できるだけ家族みんなでお墓参りをするようにしましょう。ご先祖様と語り合いができる場所、それがお寺であり、お墓です。自分のルーツであるご先祖様に会いにいきましょう。そして、自分が今生きていることに感謝し、自分もまたよき祖先となることを約束します。

盂

蘭盆会万燈供養の奉納演奏として、今回鳳笙奏者の井原季子さんをお呼びいたしました。井原さんの笙の幽玄な音色は、亡き精霊へと届き何よりの弔いになることでしょう。



【井原季子さんプロフィール】
奈良出身。京都にて学生時代を過ごす。同志社大学文学部美学及芸術学専攻卒業。笙に出会ったのは、和歌山高野山の守護である丹生都比売神社にて巫女舞の修練中。その後、元宮内庁式部元宮内庁式部職楽部(もとくぬい)ちようしきぶしよくがくぶ)首席奏長の豊英秋氏や東康弘氏に師事し、笙を学ぶ。伝統文化と精神性を探求しながら、日々研鑽を重ねつつ、寺社仏閣での奉納演奏をはじめ様々なアーティストとの合奏を行うなど、国内外で活躍中。



井原さんの演奏風景

奉納演奏をしてくださる 鳳笙奏者の井原季子(ときこ)さん

笙とは？

雅楽などで使われる管楽器の一つ。日本独自の楽器ですが、同様の楽器は中国など東アジア各地に見られます。もともと、日本には奈良時代ごろに雅楽とともに伝わったと考えられています。「匏(ふくべ)」とよばれる木製の漆塗りの器の上面に開けた穴に十七本の竹管が差し込んであります。その優雅な姿が翼を立てて休んでいる鳳凰にも見えることから、「鳳笙(ほうしよ)」とも呼ばれています。

東大寺の正倉院には唐から伝来した当時の姿の楽器が三管保管されており、現存する伝世品としての楽器としては他の収蔵品の楽器とともに世界最古とされています。なお、大陸から日本に伝来して笙となったこの楽器は、西方のヨーロッパでは金属からなるパイプ・オルガンとなり、笙と同様に神前楽器として演奏されています。